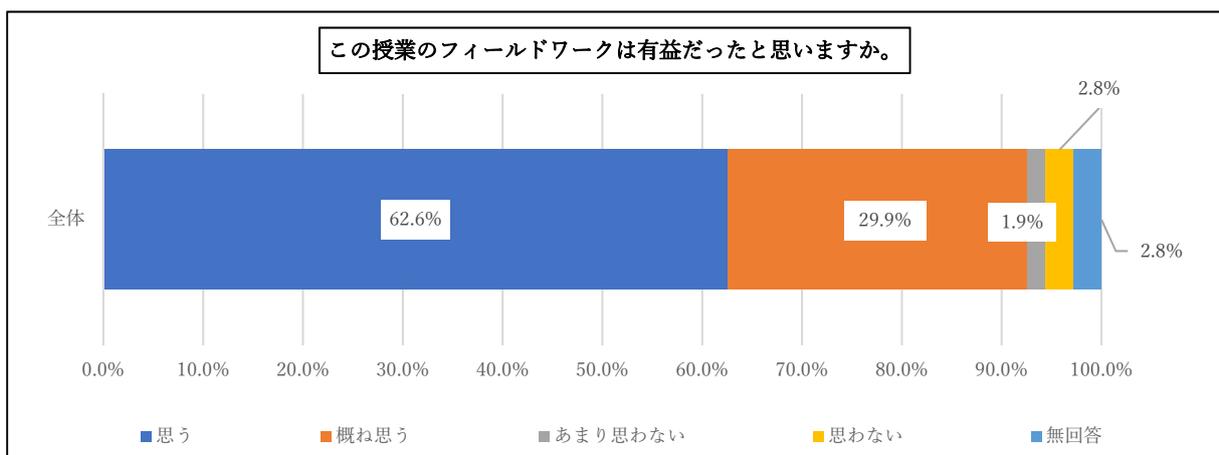
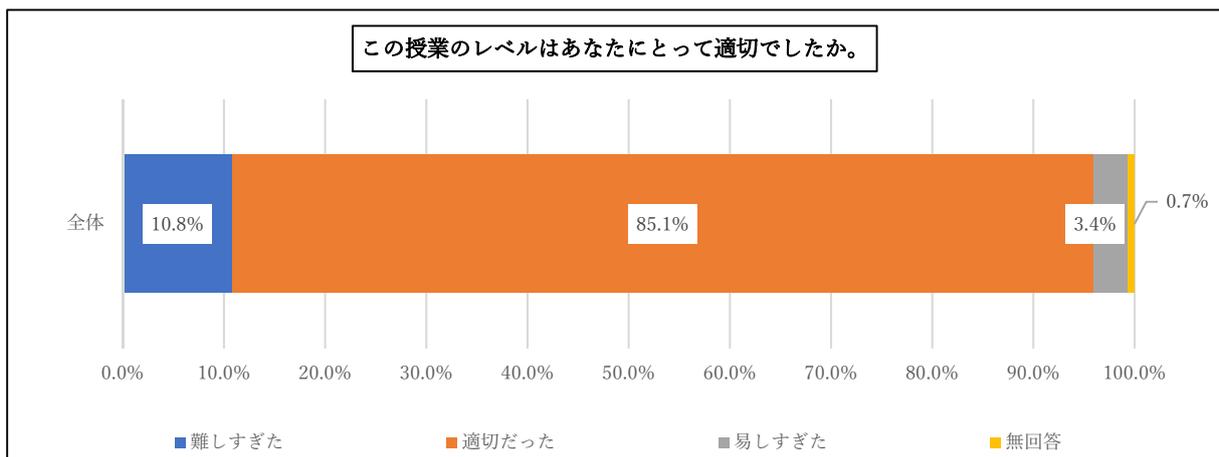
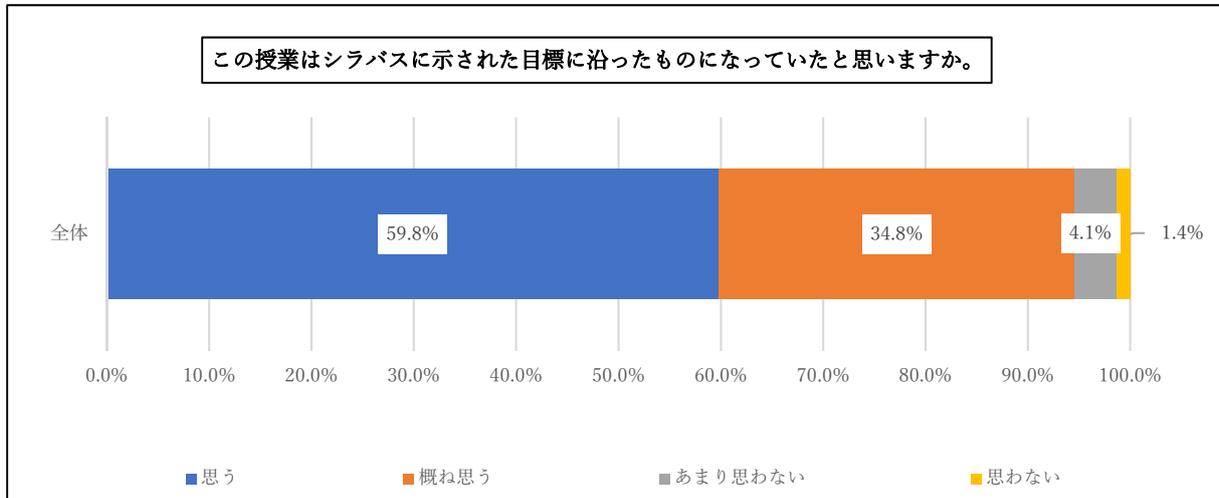
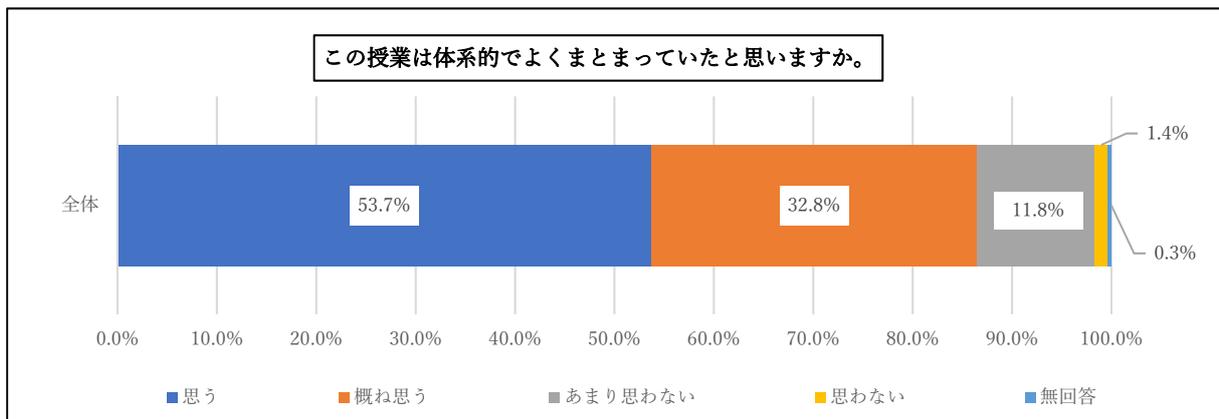
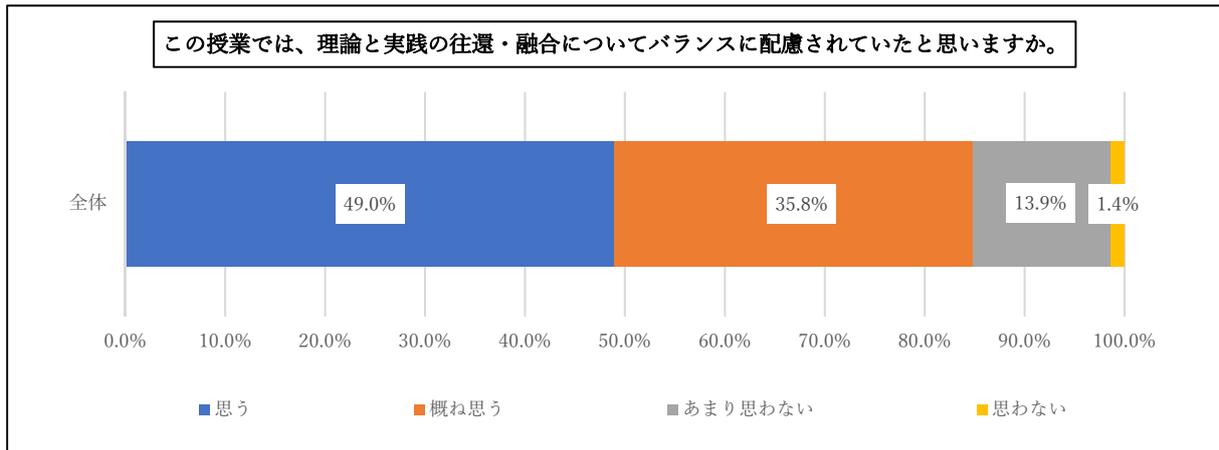


## 2024 年度秋学期「授業アンケート」

### 授業アンケートの結果

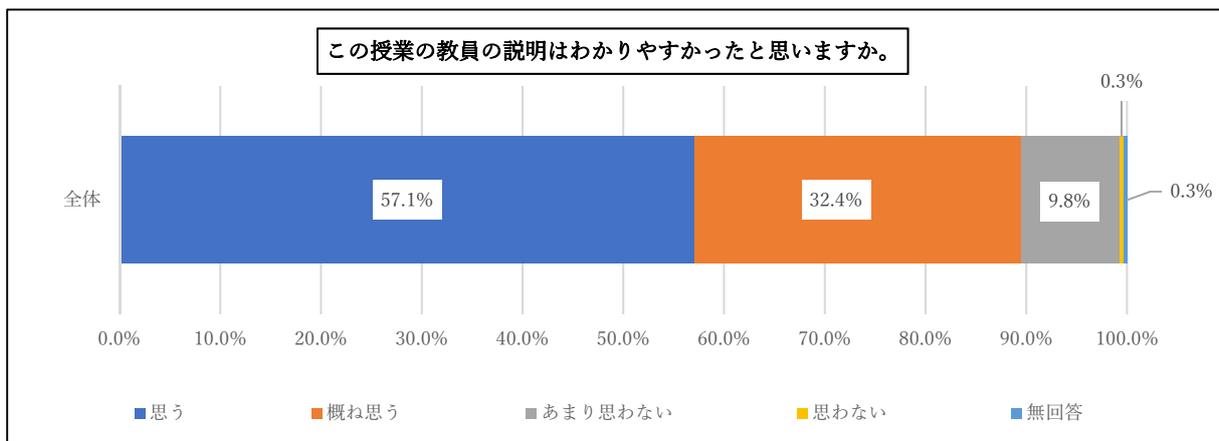
#### (1) 授業内容について

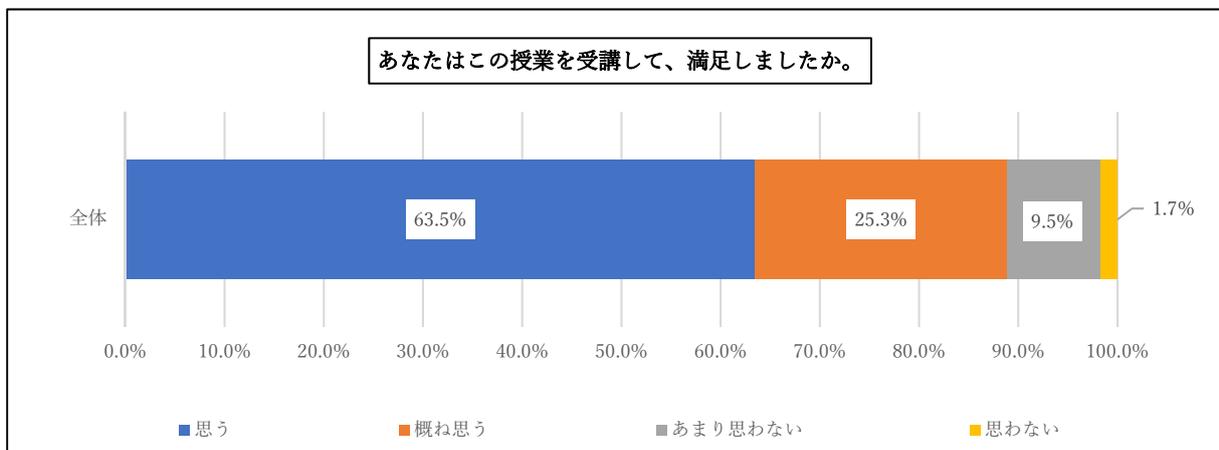
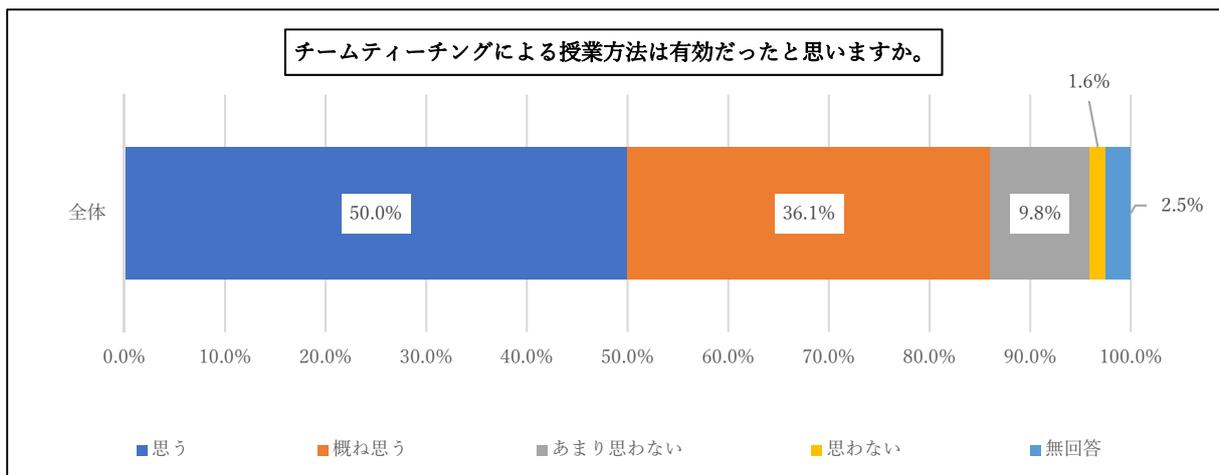
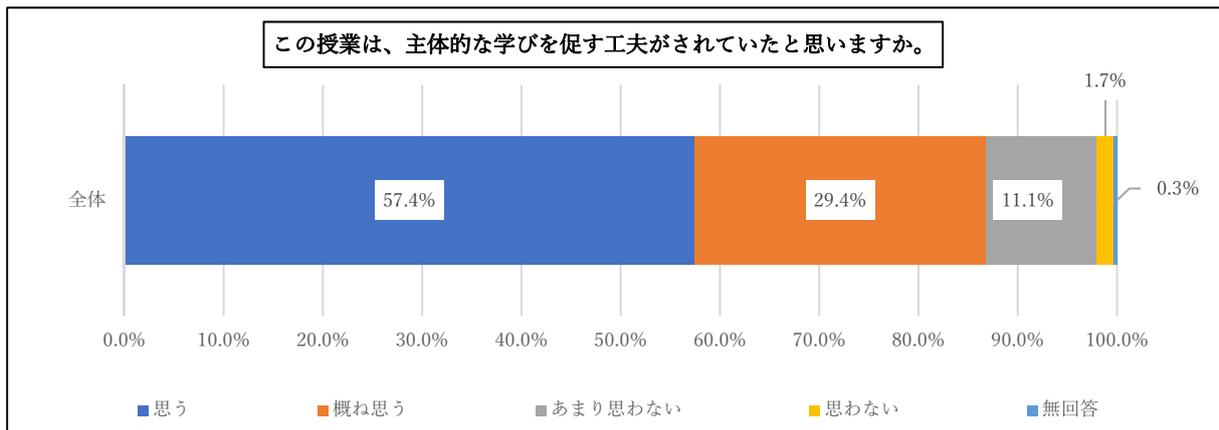




「授業内容について」の上記5項目は、肯定的な回答が9割前後となり、春学期と同様に全体として良好な状態が維持されている。ただ、理論と実践の往還にかんする設問については、15%が否定的な方向の回答となり、昨年度よりも否定的なものとなった。各科目において、理論と実践はどのように行われるのかを教員が意識し、工夫していく必要がある。

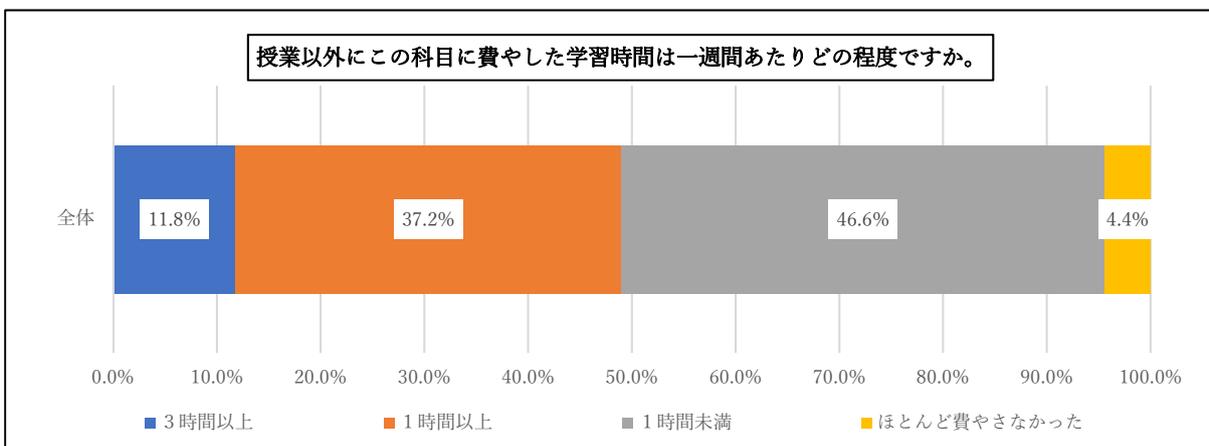
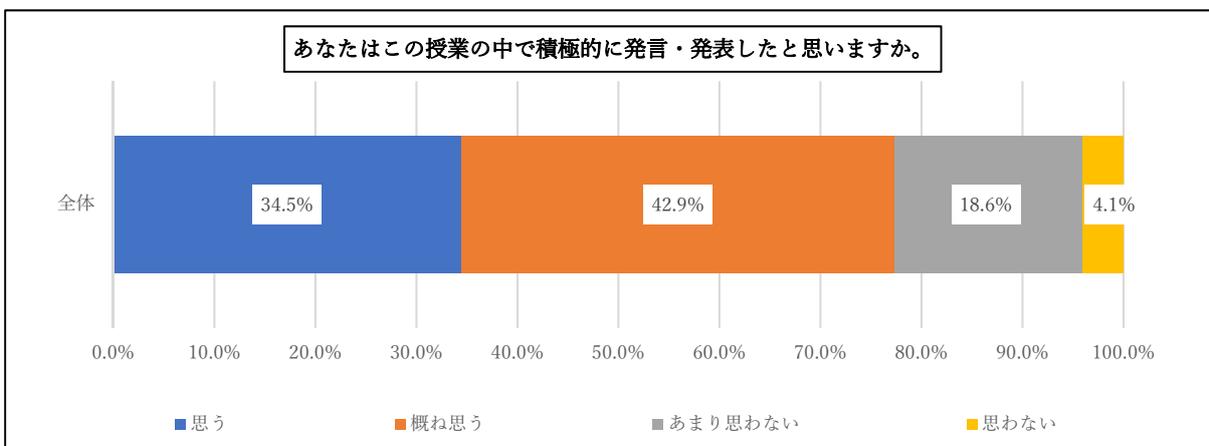
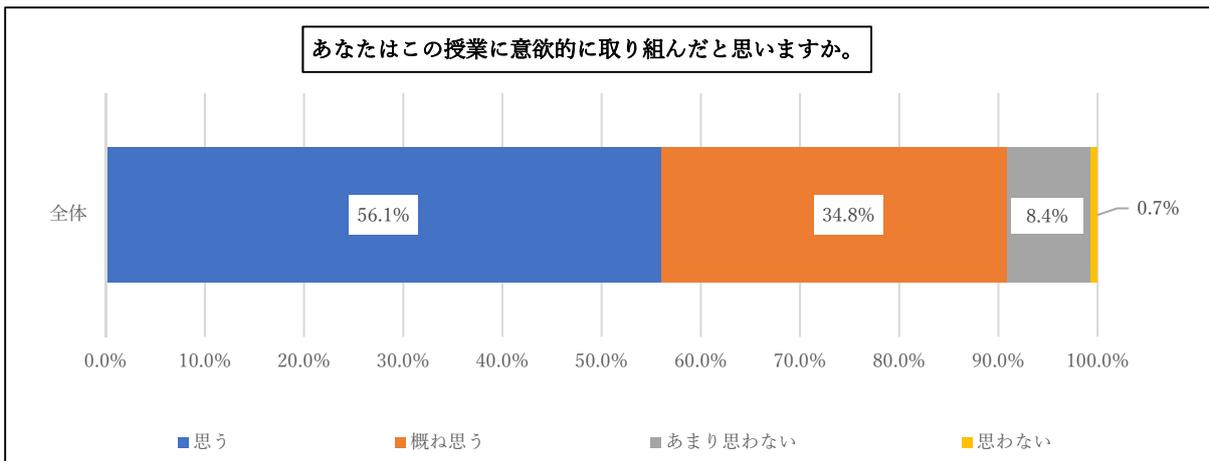
## (2) 授業の進め方について

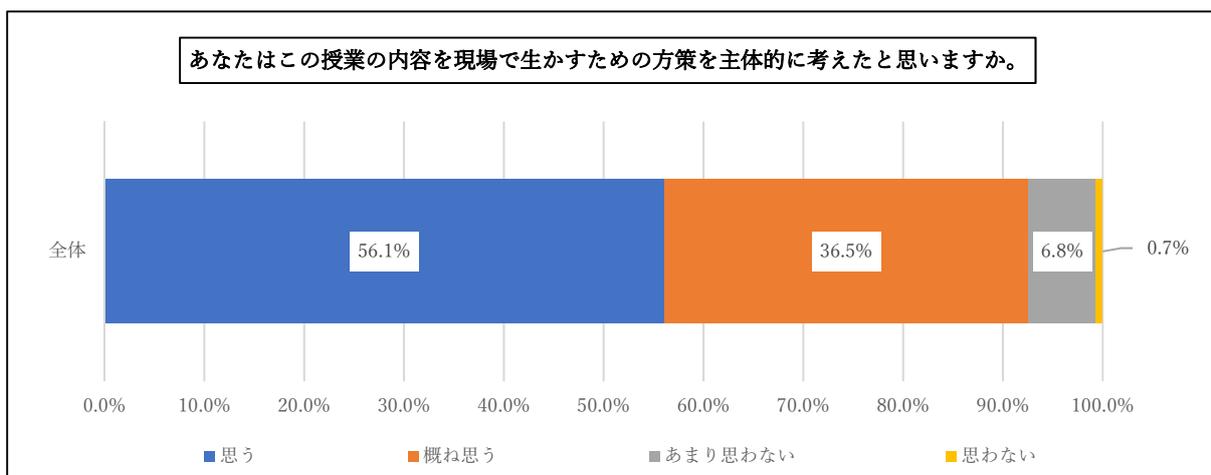
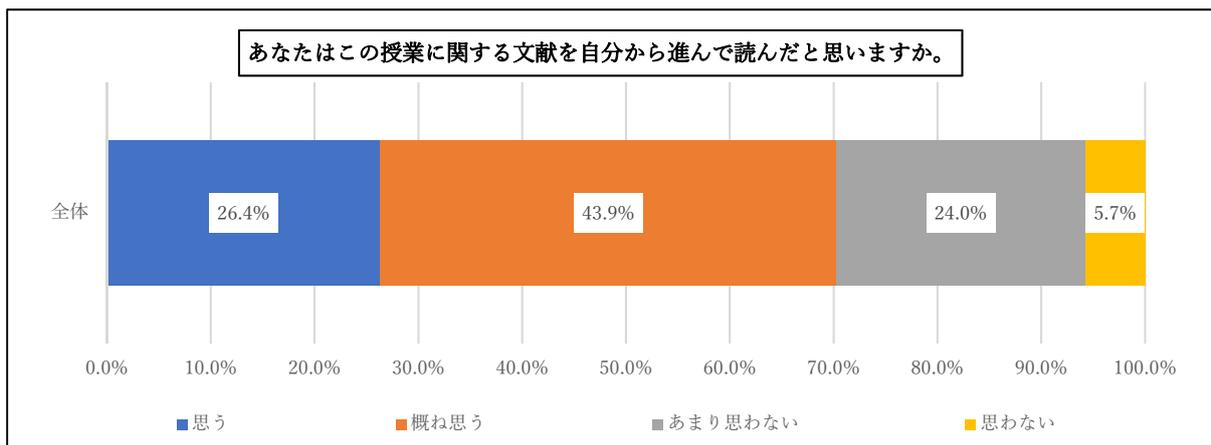




「授業の進め方について」の上記4項目も、肯定的な回答の割合が9割前後の水準にある。ただし、「主体的な学びを促す工夫」については、春学期と同様に、1割が否定的な方向の回答をしている。受講生の増加が影響している可能性があるが、そのような中において、主体的な学びを促すことができるよう、一層の工夫が必要である。また、満足度に関しても、昨年度と比べて否定的な方向の回答が増加しており、各科目の授業アンケート等から個別に原因を分析する必要がある。

### (3) 受講生の取組について





「受講生の取組について」の上記5項目では、総じて、概ね意欲的に取り組んでいる傾向にあるといえる。ただし、春学期と同様に、2割程度の受講生が、授業において積極的な発言をしていないという評価をしていた。また、春学期と同様に、授業外学習時間や、文献を自分から読むことについても、昨年と比べると、否定的回答の割合が増加していた。学部新卒院生のうちの多くが講師等で働くことで、主体性が高まる一方、多忙となる面もあり、春秋を通して、より個別的な支援が必要であるといえる。